

# 徳島県 那賀町の古代布

## た ふ おり

# 阿波の太布織

### [太布織の制作工程]

#### (1) コウゾを栽培し、その樹皮を採取して、加工する。

- ①コウゾの切り株からは、4月末か5月初めに新芽が出る。
- ②6月中旬から8月末頃まで、「芽掻き」をして側枝を防止する。
- ③1月上中旬、落葉したコウゾ（丈2〜3 丈）を根元から刈り取る。
- ④コシキの丈に切りそろえた枝を一杯分に束ね、蒸す（約2時間）。
- ⑤蒸しあげてコシキから取り出し、コウゾ一本一本の樹皮を剥ぐ。
- ⑥剥いだ皮を適当な束にして釜に入れ、灰汁で煮る（約2時間）。
- ⑦釜から出し、木槌で叩き、粉殻をまぶして踏み、オニ皮を取る。
- ⑧那賀川本流の浅瀬に浸けて、一昼夜流水にさらす。
- ⑨水から揚げ、日陰にひろげて、凍らせながら2昼夜ほど置く。
- ⑩小さな束にまとめて、軒下の竿に掛け、乾燥させる。
- ⑪固まっている皮を木槌で叩いたりして一層柔らかくする。

#### (2) 樹皮の繊維化をすすめ、均質な糸にする。

- ①柔らかくした皮を、2ミリ〜3ミリ程度の太さに裂く。
- ②末部を二つに割り、本部を挟んで縋って一本につなぐ（績む）。
- ③その績んであるものを水に浸し、すぐに絞って水を切る。
- ④糸車にかけ、回して紡ぎ、紡管に巻きつけていく（紡ぐ）。
- ⑤紡いだ糸を、乾かないうちに総車にかけ、必要な長さにする。
- ⑥総車から外した糸束を灰汁で煮て、またすぐ引き揚げる。
- ⑦それを水で洗ったあと、よく絞って水気をできるだけ取り除く。
- ⑧それに米糠をまぶして、張力を加えながら一昼夜乾燥させる。
- ⑨十字型のナガテにかけて、1単位ごとに別の糸枠に巻く。

#### (3) タテ糸の準備をして地機にセットし、ヨコ糸を通して織る。

- ①整経台上で、タテ糸の長さを決めて、長く引き渡す（「整経」）。
- ②オサ（箆）の目に糸を通し、糸の先を数本ずつ結び竹棒に通す。
- ③それをチキリに、オサを送りながら、均等に強く巻く。
- ④オサの目を通る2本の糸の1本を、上糸としてタコ糸を掛ける。
- ⑤そのチキリを機に上げ、タテ糸をそれぞれの位置にかける。
- ⑥サシコシ（杼）にヨコ糸を巻いた織管を入れ、穴から糸先を出す。
- ⑦タテ糸の端を結びつけた竹棒を、割り竹の中に入れて固定する。
- ⑧織り手が所定の位置にすわり、その竹棒に腰当ての紐を結ぶ。
- ⑨タテ糸の目を確認して、それにフノリをつけて滑りをよくする。
- ⑩右足の屈伸と連動させ、サシコシを左右交互に入れ織り進める。

太  
布  
庵  
（平成13年秋竣工）



（太布づくり・火曜日開館）

阿波太布製造技法保存伝承会 ☎ 0884-68-2386  
〒771-6403 那賀郡那賀町木頭和無田イツツシ 1

(1)―②夏8月の「芽掻き」10日間隔



(1)―④⑤「楮蒸し」イベントは冬の風物詩。地元では「カジムシ」と呼んでいる。



(2)―②「カジ績み」気の遠くなる手仕事



(3)―⑩「機織り」地機で織る個性的な布

